■小栗忠順(上野介)　幕府きっての切れ者で，フランスとの交渉にあたり，多くの偉業をなしたが，新政府軍の斬刑に。
おぐりただまさ
日本外史・・1827＝　　江戸神田の駿河台に，徳川の古くからの家臣小栗家の忠高の子として生れた。
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝ 1歳：

幼時に疱瘡にかかり，いわゆるあばた面になった。

高島砲術・・1834＝ 7歳：たった一人の妹を失い，ほかに兄弟は無かった。小栗長屋内にあった安積艮斎の塾に通い始め，５つ上の栗本瀬兵衛(のちの鋤雲)と親交，終生の友となる。
・・・・・・1836**＝ 9歳：**
大塩平八郎乱1837＝10歳：
一方，剣術，柔術，砲術の修行もし，特に剣術は妙境に達した。

順天堂始・・1843＝16歳：**_江戸城にお目見得して，**
天保改革終・1844＝17歳：**_出仕し，**
阿部正弘首座1845**＝18歳：**

・・・・・・1847＝20歳：**_城中に召され，本格的に勤務し，老中首座阿部正弘に目をかけられるようになる。**
・・・・・・1848＝21歳：弓術においても優れたところを見せ，時服を賜った。
北斎没・・・1849＝22歳：結婚し，今でいう家計簿をつけ始め，収支をコントロール。

ペリー来航・1853＝26歳：進物番出役，
開国開港・・1854**＝27歳：**
安政大地震・1855＝28歳：**_新潟奉行をしていた父が現地で病没し，家督を相続，2500石の旗本となる。**

蕃書調所・・1857＝30歳：御使番，

安政の大獄・1859＝32歳：***老中首座が井伊直弼になって開国し，急に道が開け，目付(監察)に抜擢され，**
桜田門外変・1860＝33歳：**_日米修好通商条約批准交換の使節の正使新見正興，副使村垣範正に次ぐナンバー3として，70人で渡米，大歓迎を受けた中でも注目された。帰国後，外国奉行となる。この時建てた西洋館がのちの築地小劇場。**
遣欧使節・・1861＝34歳：**_ロシア軍艦ポサドニック号が対馬に滞泊する事件が起きた際，忠順は対馬に赴き退去を要求したが，目的を達することができず，免職となり江戸へ帰ったが，その才能を買われて，再び，小姓組番頭，**
生麦事件・・1862＝35歳：***勘定奉行となり，町奉行を兼任，講武所御用取扱を命じられ，歩兵奉行も兼任させられ，**
8月18日政変 1863**＝36歳：**_維新後の陸軍組織の基礎となるような改革を断行するが，まもなくすべてを辞任，無役となる。
禁門の変・・1864＝37歳：**_勘定奉行に再任され，軍艦奉行を兼任，**
薩摩藩士密航1865＝38歳：***フランス公使ロッシュに交渉し，フランスから240万ドルを借款し，幕府内の守旧派を説得して，横須賀に製鉄所，造船所，修船場の建設を開始，近代経営も導入し，のちに横須賀工廠に発展。**
薩長同盟・・1866＝39歳：**_海軍奉行。その一方で，目をかけていたのちの三野村利佐衛門を活用，三井組の危機を救うとともに，日本経済への外国支配を排除して，市中の中小商人を安堵させる案を実行，彼が三井の大番頭になり，結局は三井が新政府の台所をにぎるもとになった。さらにフランスから600万ドルの借款契約を結び，軍艦，銃砲の購入費や陸軍教官の招請費にあてることにしていたが，幕府の倒壊で大部分は実現せず，**
大政奉還・・1867＝40歳：**_陸軍奉行を兼任。集大成ともいえる日本最初の株式会社兵庫商社の創立を建議したが，大政奉還となり，**
明治維新・・1868＝41歳：***戊辰戦争で徳川慶喜に抗戦を進言したが入れられず，上州群馬郡権田村に引退，新政府軍に逮捕され斬刑に処せられた。**

集英社文庫「小説小栗上野介　日本の近代化を仕掛けた男」，「人づくり風土記(神奈川)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，
平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，歴史有名人の死の瞬間，